

この夏、哲学をはじめよう

第43回

夏期哲学講座

2023 8 | 19 土 13:30 - 20 日 16:30



人はどこから来てどこへ行くのか――

あなたの周りには、哲学する場があるでしょうか
哲学について考え、語り合う場があるでしょうか

今年で四十三年目を迎えるこの夏期哲学講座は
直に人と出会い、人と対話して、
生きた哲学を学ぶことのできる講座です。

「少し興味があります」という方から
「長年、哲学を勉強しています」という方まで、
どなたでも参加できます。

場所は、日本最初の哲学者・西田幾多郎の故郷
日本海をのぞむ「哲学の博物館」
安藤忠雄が設計した、考えるための空間です。



石川県

西田幾多郎記念哲学館

Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126

石川県かほく市内日角井1番地

TEL (076)283-6600 / FAX (076)283-6320

Email nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

<http://www.nishidatetsugakukan.org/>

開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日 (祝日の場合は翌平日)

交通アクセス

- 車利用：北陸自動車道「金沢東I.C.」～約20分
のと里山海道「白尾I.C.」～約5分
- 電車利用：JR金沢駅～IRいしかわ鉄道経由・
七尾線(約25分)～宇野気駅

- 日時 令和5年8月19日(土) 13:30 ~ 20日(日) 16:30
■会場 石川県西田幾多郎記念哲学館(石川県かほく市内日角井1番地)
■定員 40名 ※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。
■受講資格 18歳以上

- 受講料 〔一般〕10,000円 〔学生/かほく市民〕6,000円
※19日の夕食と20日の昼食、2回分の食事がつきます。
※学生割引については、科目等履修生(聴講生)は対象外とさせていただきます。

■宿泊方法

- ◎ 合宿 例年、「合宿」の場を設けておりましたが、今回は感染症拡大防止の観点から、合宿所を開設することができません。大変申し訳ありませんが、各自で旅館を予約していただきますようお願いいたします。

- ◎ 旅館 旅館は各自でご予約ください。 参考までに、宇野気駅最寄りの宿名と電話番号を記載しますので、よろしければご利用ください。詳細は、直接宿にお問い合わせください。

なごみ亭 (076) 283-5550 〔JR宇野気駅から徒歩2分〕 ※旧さか井や旅館

■交通アクセス

哲学館がある「かほく市」は、能登半島の根元、金沢市より20km北に位置します。

- ・自動車:北陸自動車道(金沢東IC)から、国道159号線で七尾方面へ約20分。
のと里山海道(白尾IC)から約5分。
- ・電車:JR金沢駅から、IRいしかわ鉄道経由・七尾線で宇野気駅へ約25分。
宇野気駅から徒歩約20分(タクシー5分)。
- ・飛行機:小松空港から空港バスで金沢駅まで約50分。金沢駅からは同上。

- ◎ 宇野気駅から哲学館まで、講座期間中は下記の無料送迎バスをご用意いたします。
時間の都合が合うようでしたらご利用ください(なごみ亭を經由します)。

	〔行き〕宇野気駅発	〔帰り〕宇野気駅着
19日(土)	12:05、13:05	19:00
20日(日)	8:15	16:45

※バスの発着場所は、宇野気駅正面東口(銅像側)になります。
時刻が変更となる場合は、講座中にお知らせします。

- 申込締切 令和5年7月31日(月)
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

■申込先、お問合せ

石川県西田幾多郎記念哲学館
〒929-1126 石川県かほく市内日角井1番地
TEL (076)283-6600 / FAX (076)283-6320
E-mail: nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

今後の感染症拡大状況によっては、
変更・中止となる場合があります。

■ 申込方法

下記①～⑩の項目を、全てご記入の上、哲学館までお申し込みください(郵送、メール、FAX可)。
申込受付後に、振込用紙をお送りいたします。 (*マークは、いずれかをご記入ください)

①名前(ふりがな) ②電話番号 ※講座開始までの間に、必ず連絡がとれる番号をお知らせください。

③郵便番号・住所 ④性別 ⑤年齢 ⑥参加回数

⑦職業 ※学生の方は、学生証のコピーを添付してください。

⑧「宇野気駅～哲学館」の無料送迎バスを *利用する／利用しない

⑨参加を希望する研究会を選択してください。(下記参照)

○(19日)研究会Ⅰ……*第1希望 A / B / C、*第2希望 A / B / C

○(20日)研究会Ⅱ……*第1希望 A / B / C、*第2希望 A / B / C

※教室の人数調整上、第2希望を受講していただくことがありますので、ご了承ください。

⑩最近興味のある事・本、参加動機などを100字程でお書きください(受講生に配布する冊子に掲載します)。

※上記項目のうち、都道府県および①⑥⑨⑩は、受講生に配布する冊子に掲載させていただきますのでご了承ください。
また、この個人情報は、哲学館で開催される講座に関する当人へのご連絡以外の目的には使用いたしません。


◇受講生による研究発表が20日にあります。発表を希望される方はテーマをお知らせください。

※発表時間はお一人15分以内となります。希望者が多い場合はお断りすることがありますのでご了承ください。

	講師	8月19日(土) 研究会Ⅰ	8月20日(日) 研究会Ⅱ
A	秋富 克哉	西田の「場所」を考える	ニヒリズムについて — ハイデッガーと西谷啓治
	講師のコメント	「場所」思想の画期性はどこにあるのでしょうか。「純粹経験／自覚」の連関を踏まえ、論考「場所」を検討しながら、西田の思想的展開と西洋哲学史との両側面から「場所」思想の独自性と意義を検討します。	ハイデッガーと西谷は、共にニーチェとの対決を通してニヒリズム理解を深めていきました。特に西谷は、ハイデッガーとの対決を試みています。これらの内実を検討しながら、さらに私たちの今を考えたいと思います。
B	水野 友晴	鈴木大拙と河合隼雄から学ぶ「自然」観	西田幾多郎が語る「平和」
	講師のコメント	東洋古来の「自然」の意義について、それを再発見をすることは、世界文化の形成に貢献することだと鈴木大拙は説いています。どのような貢献が見込めるのか、多神論についての河合隼雄の考察も参照し、探ってみます。	戦時中、西田幾多郎は武力でなく高い道義文化からの国際貢献を説いていました。晩年の西田の日記、書簡、その他から、日本からの国際貢献についての西田の構想を見、平和について考える一時にしてみたいと思います。
C	陶久 明日香	気分という現象	嗅覚について考える パトリック・ジュースキント『香水』を中心に
	講師のコメント	ハイデッガー、ボルノー、シュタイン、パトチカなどが、気分や感情といったものについて展開した考えを紹介しつつ、共同体、空間、祝いという事象と気分的なものがどう結びついているかについて考察していきます。	映画化もされたドイツのベストセラー小説『香水』を中心に、ドイツ哲学および精神病理学のテキストの内容も視野に入れつつ、西洋哲学において考察の対象となることが少ない「嗅覚」の重要性について考えます。

※研究会で使用するテキストは、主催者側で用意します。

第 43 回夏期哲学講座 日程と講座内容

時間	8月19日(土)	8月20日(日)
8:00		8:30
9:00	※受付後、受講生は 展示室への入室ができます。	写真撮影(階段庭園)
10:00		研究会Ⅱ (選択制)
11:00		
12:00		受付(～13:30まで)
12:30		昼食
13:00	ビデオ上映「西田幾多郎」 <small>(希望者のみ)</small>	13:20
13:30	開講式	研究発表
14:00	オリエンテーション	14:20
14:15	研究会Ⅰ (選択制)	休憩
15:00		14:30
16:00		公開講演会
17:00	墓参	16:00
18:00	落日拝・夕食 <small>(海岸)</small>	閉講式
18:50		16:30
		

公開講演会

※受講生以外も聴講できます。(参加費 500 円)

8/20(日) 14:30～

住むことの哲学 — 芭蕉において

秋富 克哉 (京都工芸繊維大学教授)

講演会・研究会講師プロフィール

秋富 克哉 (あきとみ かつや)

京都大学で学ぶ。京都工芸繊維大学教授、西田哲学会前会長。専門は現象学、京都学派哲学。著書『芸術と技術 ハイデッガーの問い』、『原初から／への思索—西田幾多郎とハイデッガー—』、共編著『ハイデッガー読本』『続・ハイデッガー読本』『ハイデッガー事典』等。

水野 友晴 (みずの ともはる)

京都大学で学ぶ。関西大学教授、西田哲学会理事。専門は日本哲学(西田幾多郎、鈴木大拙)、比較思想史。著書『「世界的自覚」と「東洋」—西田幾多郎と鈴木大拙』、共著『『善の研究』の百年—世界へ／世界から』等。

陶久 明日香 (すえひさ あすか)

ヴッパータール大学(ドイツ)で学ぶ。学習院大学教授、実存思想協会理事。専門はドイツ哲学(ボルノー、ハイデッガー)。著書 *Die Grundstimmung Japans — Ein Versuch mit Martin Heideggers Stimmungsphänomenologie*、共著『ハイデッガー読本』等。